

## 第51回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

ゼミ名	森ゼミ	チーム名	オレンジ
タイトル	コロナ禍におけるワクチン接種と将来の不安		
テーマ群	g) その他		
メンバー	下辻雅也、武下桂子、井原正顕、梶家さくら、長井友紀、辻聖輝、嵯峨涼斗		
研究計画内容	<p>[研究の背景]</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の収束の目途が立たない中、生活様式の変化や長く続く自粛生活によって社会全体に閉塞感が漂っている。度重なる緊急事態宣言などにより、将来の見通しが立たない状況が続いているが、不安の感じ方は人それぞれである。このような状況下で、どのような人がより強く将来への不安を感じているのかに興味を持った。そこで年齢、性別、生活様式、人との関りについて将来への不安との関連を調べようと考えた。また、ワクチンの集団接種が各自治体などによって進められている。多くの人が将来への不安を感じている中、集団接種の開始は明るいニュースであったが、全員が肯定的な意見を持っているわけではなく、積極的に受けたいという意見も多い中、副反応などの観点から接種に消極的な人も見られる。個々人によってワクチン接種への意見は違うが、肯定的な意見を持つ人、否定的な意見を持つ人がそれぞれどのような傾向を持っているのかも感じているのかも併せて調査をしようと考えた。よって先ほどの項目に加えてワクチン接種への意見の項目を含め、将来への不安の関係を調査する。さらにワクチン接種への意見についても年齢、収入、生活様式、性別とどのような関係があるかを調査する。</p> <p>[研究の内容]</p> <p>意識調査のアンケートを行う。このアンケートは将来への不安に加えて年齢、性別、生活様式、収入、人と話す頻度、ワクチン接種に対する意見についても問う。このアンケートを年齢、性別に偏りのないようにできるだけ多くの層から回答を集める。こうして得られた結果をもとに将来への不安、ワクチン接種への意見、それぞれについてプロビット分析を行うことによって上記のどの項目が将来への不安、またワクチン接種への期待感とより強く関係があるのかを調べる。</p> <p>[期待される効果]</p> <p>この調査によってどのような人が将来への不安を強く感じているのかを明らかにすることができると、新型コロナウイルスの流行により不安を感じている人へ効率的なサポートを行うことが可能となる。また、ワクチン接種に対しての意見の傾向が明らかになると接種率を高めるための取り組みに生かすことが出来る。</p>		